

商工 Q & A

ちょっとここが聞きたい…

Q1：専門高校と普通高校の違いは何ですか？

A1：専門高校は専門科目に重点を置いた教育を行い、スペシャリストを育成します。商工高校は、総合ビジネス科（商業）と総合技術科（工業）の専門高校です。全体の約3分の1が専門科目です。実習の授業も多く、自分の進路に向けた実践的な内容となります。資格取得や、検定合格の技術を身に付けることができます。好きな分野の勉強が重点的に勉強できるのが専門高校です。当然ですが、必修科目は普通高校と同じです。

Q2：専門高校から大学進学はできますか？

A2：専門高校からも進学できます。むしろ商学部・経済学部や工学部など商業系や工業系への進学は、大学によっては専門高校の推薦枠があり有利な場合もあります。資格や検定を取ってA0入試を利用する生徒も多いです。逆に言うと、専門科目の分、大学受験科目の授業時間が少なくなりますが、専門科目を受験科目に選べる大学も増えてきています。商工高校では、この数年ビジネス科の約6割、技術科の約4割の生徒が、大学や大学校、専門学校などの上級学校へ進学しています。大学の先生から、専門高校出身の学生は大学の専門の授業で、普通高校出身の学生に比べ専門の知識技能だけではなく、目的意識も高く優位性を発揮していると聞いています。28年度、総合ビジネス科からは、神奈川大学・関東学院大学・駒沢大学・専修大学などへ、総合技術科からは、神奈川工科大学・東京理科大学・東京電機大学・日本大学などへ進学しました。

Q3：就職には専門高校が有利ですか？

A3：ずばり有利です。専門高校では、共通科目（普通科目）の他に専門科目を学びます。多くの実習や実技を通して、卒業後、実社会に出てすぐに役立つ知識・技術を身に付けることができます。将来必要となる検定や資格を高校時代にたくさん取得することができます。将来、自分が就きたい職業分野が決まっていて、卒業後すぐに就職したい人、または、実学が好きな人は、専門高校をお勧めします。普通高校からの就職は、専門高校と比べると非常に厳しいのが現状です。商工高校の就職希望者の就職率は100%です。しかも、創立97年になる商工高校は多くの大手優良企業から求人募集をいただいています。28年度、総合ビジネス科からは、関電工・三和産業・崎陽軒・田辺商事・日本郵便などへ総合技術科からは、古河電工・東電同窓電気・JFEスチール・東京メトロ・巴工業などへ就職しました。

Q4：専門科目は難しいのでは？

A4：技術科の電気は専門的で普通科の物理より難しいかも知れませんが、ビジネス科の簿記は大学の授業の先取りですから決して甘くはありません。でも心配はいりません。入学時のスタートラインが同じため、基礎から少しずつ学習します。実習の授業は先生が複数体制で指導します。特に技術科の実習は生徒10人程度に教員1名の少人数展開となります。

Q5：専門高校に行くと進路の選択を狭めることにはなりませんか？

A5：進学に関していえば、総合技術科なら理工系、総合ビジネス科なら経済・商学系と大枠は決まりますが、総合技術科から文系に進学した生徒もいます。また、商業を学ばなければ経済社会の動きは理解できません。専門性を高めれば、それを生かせる仕事の範囲はむしろ広がっていくと考えています。

Q6：工業高校と工科高校の違いは何ですか？

A6：神奈川県では、入学時に機械科とか電気科の小学科別に募集する高校を工業高校、入学時では総合技術科として募集し、1年生で工業全般の基礎を学んだ上で、2年生から系に分かれる高校を工科高校としています。

商工高校は工科高校となります。2年生から機械系・電気系・化学系に分かれます。

なお、神奈川の県立商業高校は全て総合ビジネス科での募集で、2年生から系を選択します。商工高校は、2年生から会計系・情報系・流通系に分かれます。

Q7：商業の専門科目はどのような内容を学ぶのですか？

A7：商業の基本的な知識や技術を身に付けます。その上で、実際のビジネスを理解し、実社会で実践する力を磨きます。地域に出て、商品開発や販売実習などを行ったり、そのプロセスの中で、資格修得やコンテストに挑戦したりします。

例えば、「簿記」では会社の日々の取引をお金として正確に記録・集計し、その内容を関係者に明確に伝えることを学びます。他にも「情報処理」や「ビジネス文書」「マーケティング」などがあります。商業を学ばなければ経済社会は理解できません。

Q8：男女の人数を教えてください。1クラスの人数は何人ですか？

A8：29年度は商工高校全体で男子411人、女子255人です。このうち総合ビジネス科は男子114人、女子224人。総合技術科は男子297人、女子31人です。

29年度から1年生は、6クラスを8クラス展開しています。1クラス29名の少人数クラスを実現しました。目が行き届く、きめ細かい指導を目指しています。

Q9：1年生はビジネス科と技術科の混合クラスと聞きました。

A9：1年生は、混合クラスです。クラスの半分はビジネス科で半分は技術科です。互いに専門性を刺激しあい、ビジネスの視点を持った工業人、工業の視点を持った商業人の育成を目指しています。どのクラスも男子18名女子11名前後となっています。

専門科目の授業のとき、それぞれの学科に分かれます。30年度からは更に、共通科目をそれぞれの専門科目の特色を生かした配置に充実させました。例えば、ビジネス科は3年生で家庭総合を学びますが、技術科は1年生で家庭基礎を学びます。その分、1年生のビジネス科の専門科目を技術科より多くしました。技術科は3年生の専門科目が多くなります。

2年生以降は学科別・系別のクラス編成となり、7クラス展開をしています。

Q10：部活動は盛んですか？

A10：29年度の加入率は52%です。運動部19・文化部11の他に技術研究部や商業部、理化学部、放送部、商工部、パソコン部などの技術部6と釣り同好会があります。28年度では、女子バレーボール部が県大会ベスト16、横浜市大会優勝など、ソフトボール部は混合チームですが県大会ベスト8と頑張っていました。29年度は部員が増え、単独で試合に出ています。野球部は硬式も軟式もあり、それぞれ頑張っています。バドミントン部は国際審判員資格を持ってリオのオリンピックで審判をした先生が指導しています。28年度横浜市大会女子ダブルスで3位入賞を果たしました。サッカー部も地区決勝戦進出など元気に頑張っています。

Q11：修学旅行について教えてください。

A11：1年生で学ぶ総合的な学習「ものづくりとビジネス」の集大成と位置づけて、職業体験をメインに、平和学習や防災教育を組み入れた商工高校ならではの修学旅行を行っています。

今までは3年生の春に実施していましたが、29年度からは2年生での実施に変更しました。東北・北海道方面や中国・近畿方面を訪れています。

Q12：校舎が新築でとてもきれいだと聞きました。

A12：28年の2学期から耐震化された新校舎で授業を行っています。明るく開放的で斬新なデザインによる校舎からは、富士山や大山、スカイツリーまで望める、緑に囲まれた抜群の学習環境にあります。自動販売機の他に、お弁当やパンなどを販売している売店もあります。

1Fは機械系エリア、2Fは電気系エリア、3Fは化学系エリア、4Fはビジネス系エリア、5Fは芸術・家庭科エリアとなり、階段の踊り場はそれぞれ色別に表示されています。

「いつまでもきれいな校舎」を合言葉に、生徒が掃除を一生懸命やっています。トイレには歯を磨く洗面台もありとても好評です。学校というよりも、オフィスビルのような校舎です。朝は、クラシック音楽が流れ、毎時間の授業開始1分前に予鈴がなると生徒は席について授業の準備を始めます。落ち着いた雰囲気の中で勉学に励んでいます。

Q13：交通の便はどうか？ 自転車通学者はどのくらいですか？

A13：相鉄の「二俣川」「星川」、JR線の「保土ヶ谷」「東戸塚」からそれぞれバスで15分から20分ほどです。更に、二俣川駅からは2路線あり、いろいろな方面からのアクセスに恵まれています。29年度は223人の生徒が自転車通学をしています。全体の33%に当たります。

Q14：学校見学はできますか？

A14：学校説明会 8月26日（土）・11月18日（土）・12月9日（土）

オープンスクール 9月23日（土）

文化祭一般公開 10月28日（土）・10月29日（日）

いずれも事前予約は要りません。上記以外にご希望の場合は、事前にお問合せください。

問合せ先 電話 045-353-0592 教頭・副校長

（恐れ入りますが、月曜日から金曜日の、午前9時から午後5時の間をお願いいたします。）